山口大学医学部 医学科後援会 会報

H29.12
Vol.11

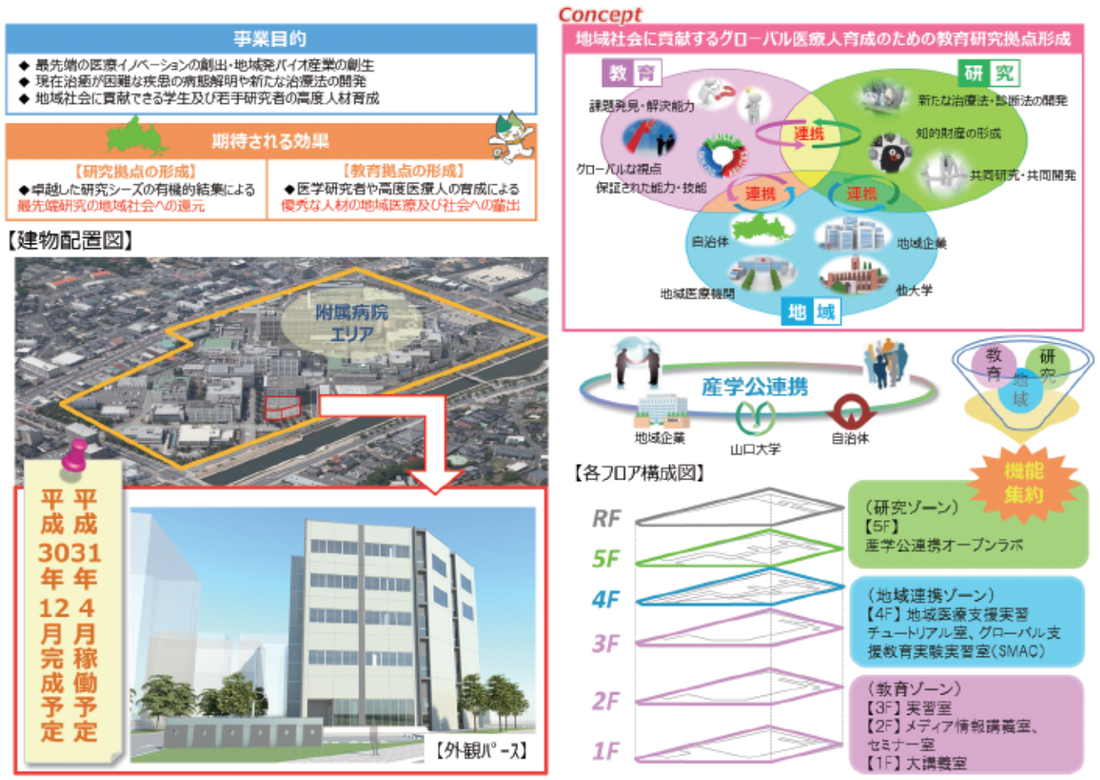
西日本医科学生総合体育大会で優勝したハンドボール部

Yamaguchi University Faculty of Medicine

特 集 1　新しい治療アプローチを目指す
特 集 2　医師として生涯の仕事を
NEWS　総合研究棟の新営について
お知らせ　平成29年度保護者会のご案内

NEWS　総合研究棟の新営について

山口大学医学部に、新しい総合研究棟が建設されることとなりました。平成29年末に着工し、平成30年12月完成予定です。新しい総合研究棟には大講義室や実習室等の教育施設のほか、産学公連携オープンラボや地域連携施設が集約され、最先端の医療イノベーションの創出等、教育･研究のさらなる充実が期待されます。



お知らせ　平成29年度　保護者見学会のご案内

今年度の医学科保護者見学会は、平成30年1月21日（日）に開催いたします。

対象の4年生及び5年生の保護者の皆様には、ご案内差し上げておりますが、あらためてご案内いたします。

保護者の皆様には、新入生保護者会以来、宇部市の医学部（小串キャンパス）にお越しになる機会も少ないと思われますので、この機会に医学生がどのような環境の中で学んでいるかご覧いただきたいと存じます。

日時 平成30年1月21日（日） 13時00分～17時15分（受付12時30分～）
場所 山口大学医学部　講義棟C第3講義室
対象 医学科4年生及び5年生の保護者
内容 全体説明（カリキュラムの概要、学生支援の取り組み、臨床研修制度 など）、施設見学
申込 平成30年1月5日（金）までに医学部総務課へご連絡ください。
TEL:0836-22-2114　E-MAIL:me261@yamaguchi-u.ac.jp

発行:山口大学医学部医学科後援会事務局　宇部市南小串1-1-1　電話 0836-22-2111　gokai@yamaguchi-u.ac.jp
発行日:平成29年12月

志高い医学部生を支える

医学科後援会会長
石原　得博

山口大学医学部解剖献体者慰霊祭（10月13日に挙行）に医学科後援会長として3年続けて出席しました。私にとっては、医学生（3年生：20才の時）として系統解剖実習後の慰霊祭（当時は宗隣寺）に出席したのが最初で、その後病理学を専攻したので、大学院生（1年生：24歳）の時から大学を定年退職する（63歳）までアメリカ留学中の2年間を除いて慰霊祭には出席しました。

私は系統解剖のみでなく病理解剖に携わった多くのご遺体（恩師や肉親もいます）の慰霊祭に対しては特別な思いがあります。頌徳碑を宗隣寺から医学部の敷地に移設したことにも病理学の教授として関与し、また、医学部長の時に頌徳碑の近くにヒポクラテスの木（ギリシャのコス島でヒポクラテスが講義した際のプラタナスの木の遺伝子を持つ）を植えたのを思い出します。厳しい系統解剖実習を終えた多くの医学科生や保健学科の学生が畏敬の念を持って、「最高にして最後の贈り物」である合祀された御霊をお見送りする姿には心が温まります。この気持ちを一生忘れずに医学・医療のために頑張って欲しいと思います。

次に、私が後援会会長に就任して3年目となりますが、後援会長になりました時にお話しましたことを簡単に述べたいと思います。

まず一点は医師の国家試験についてです。平成26年度の第109回の国家試験の山口大学の合格率は82.1%で、国立大学では最下位でしたが、学生本人は勿論、教職員の皆さんのご努力により27年度の第110回の国家試験では、新卒者117人のうち113人が合格し、合格率96.58%で、国立大学では4番目と改善しました。しかしながら、残念なことに28年度の国試は新卒者及び既卒者の合格率が87.6%と全国平均を下回ってしまいました。国家試験に合格することは医学生にとって最低限の義務だと思いますので、教職員、学生が一丸となって国試に取り組んで頂きたいと思います。

2点目は、山口大学小串地区の教育ゾーンで、特に医学科学生に対する講義棟が古くなっている件でした。医学科生のための講義棟の建設は私の医学部長時代（約15年前）からの願いでしたが、今年度新たに総合研究棟が建設されることとなり、年末に着工予定です。医学部および大学の教職員の皆さんに感謝いたします。附属病院では新病棟も建築中ですので、ハード面は非常に充実し、医学教育には最適な環境になると思います。

3点目としては、山口大学で研修する卒業生が非常に少ないことです。やはり、人がいなくては、研究、教育、臨床と沢山のスタッフを必要とする大学としては、先行きが不安ですが、一時期の残留率の低下を乗り越えV字回復しているようです。勿論、いい卒業生が世界に羽ばたき、グローバルに活躍することも期待しています。

4点目として、今年度約半世紀ぶりに山口大学が第69回西日本医科学生総合体育大会（通称西医体）を引き受け、成功裏に終了しました。この大会は西日本全域から医学科生が参加し、参加人数としては国体に次ぐ規模です。実施に際し、医学科同窓会である霜仁会の多くの先生方に協力して頂きました。後援会としても精神的のみでなく、経済的にも支援できたと思います。

最後になりますが、山口大学医学部に入学して良かったと思えるように、家庭と緊密な連絡をとりながら学生の福利厚生の手助けができればと思いますので、ご協力のほど宜しくお願いします。

ご　挨　拶

山口大学医学部医学科後援会顧問
山口大学医学部長、医学科長
谷澤　幸生

平素より山口大学医学部医学科に対してご支援を賜り、ありがとうございます。この場をお借りして、お礼申し上げます。

医学部医学科では一昨年、浅井義之教授をお迎えし、本年4月に環境保健医学講座を改組して新たにシステムバイオインフォマティクス講座を開講しました。浅井教授は大阪大学基礎工学部生物工学科をご卒業の後、同大学院に進んで博士号を取得され、「バイオインフォマティクス」、特に生物現象をコンピュータを用いてシミュレーションすることなどをご専門にされている新進気鋭の研究者です。昨今、人工知能がいろいろな分野で応用されています。医学の分野も例外ではなく、基礎医学では次世代シークエンサーなどから生み出される大量のデータから人間の頭脳のみでは見つけることができない現象を発見し、臨床医学では膨大な診療情報から新しい診断法や検査法を確立することなど多方面への応用が期待されています。「システムバイオインフォマティクス講座」とは耳新しい講座名ですが、医学部内にバイオインフォマティクスの講座を設置した大学はまだ例がなく、山口大学医学部での基礎医学、臨床医学の新たな方向への発展の基盤を担う講座です。また、この講座と公衆衛生学・予防医学講座や医療情報判断学講座（医学部附属病院医療情報部）を中心に、大学院医学系研究科・医学部附属病院AIシステム医学・医療研究教育センターを設立予定です。大学院医学系研究科、医学部、医学部附属病院としても新たな領域でのさらなる研究の発展と、時代の要請に応える医師の養成につながることと大いに期待しています。

医学教育については、昨年、この場をお借りして、医学教育の国際標準化のことを紹介させて戴きました。平成31年度の医学教育の分野別認証評価の受審に向けて、着々と教育の改善を進めています。また、今年度初めには医学教育の指針を示す「医学教育コアカリキュラム」が改訂され、「プロフェッショナリズム」の涵養、より積極的に学ぶアクティブラーニングの推進、教育プログラムを成果をもとに評価、改善することなどが強調されています。それに対応するように、卒業時の到達目標である山口大学医学部の「ディプロマポリシー」も改定しました。ホームページに掲載していますので、是非、御覧下さい。

学生と教員の関係をより密接にし、修学上、学生生活上の悩みなどの相談に適切に応じ、対応することができるように、担任制を導入し、今年の2年生から開始しました。全ての学生に、2年生の後期から卒業まで同じ教員が担任として、必要に応じて助言や指導を行います。まずは、学生と教員・医学部との「きずな」を深めて行きたいと思います。

この1年間で、医学科でのもっとも大きな行事のひとつに、西日本医科学生体育大会（西医体）を主管として開催したことがあげられます。この大会は、西日本の国公私立の医学部・医科大学44校の学生が1年間の練習の成果を競うもので、ほとんどの競技が山口県内で開催され、選手、関係者を合わせて1万5千人以上が集いました。体育大会としては国体に次ぐ規模だそうです。総合3位、ハンドボール男子優勝、空手男子・水泳女子2位、剣道男子3位と競技成績でも健闘しましたが、何より、重大な怪我なく、安全かつ円滑に運営できたことが大きな成果でした。大会の運営は、教員の助言もありましたが、全て学生の手によって行われました。多くの学生が運営委員として参加しましたが、このような大規模の大会を成功させたことが大きな自信になったと思います。

昨今、大学改革も進み、また、卒後臨床研修制度、新たな専門医制度の導入などに伴い、地方大学はいずれも厳しい状況にあります。山口大学医学部はすでに70年以上の歴史と伝統を持つ、有数の医育機関として発展しています。地域医療はもとより、日本の、そして世界の医学医療を担って行く人材の養成を目指していますが、その目的を達成し続けるためにもこの医学部に学んだ卒業生の1人でも多くが母校で世界に発信する研究、診療を行い、後輩を育て医学部の将来を担ってくれることを期待しています。保護者の皆様には、山口大学医学部医学科に対して一層のご協力、ご支援を心からお願い申し上げます。

平成29年度　理事会報告

■平成28年度　事業報告

平成28年度の実施事業から主な内容を抜粋してご紹介します。
＊ 平成29年度も事業継続しています。

1.キャンパス間移動用バス運行補助

クラブ活動に参加する1年生送迎（吉田キャンパス⇔医学部キャンパス）のために、バス借上げ費用の一部の補助を継続しています。

以前は各クラブの先輩が後輩を車で送迎することが常態化しており、事故等が非常に危惧されてきましたが、平成24年度から、学生自治会及び利用する部活動からの負担金、医学科後援会及び保健学科後援会からの補助により送迎バスの運行を継続して行っています。

実施期間：平成28年5月～平成29年2月
　　計　115日　乗車許可証発行数　114名
運行方法：大型バスにより平日週5日運行、1日1往復
　　吉田キャンパス発:月～金曜日 18時
　　医学部キャンパス発:月～金曜日　22時30分

2.医学教育に関する事業

特別講演会の開催（2講座）、臨床実習の開始前に必須となるワクチン接種の自己負担額を軽減する助成、医師国家試験対策として模擬試験受験料の補助等を行っています。

3.保護者見学会の開催補助

平成24年度から、医学科4年生および5年生の保護者の皆様を対象とした保護者見学会を開催しております。見学会では、医学科の学生支援の取組み、臨床研修医制度やマッチングの仕組みについての情報提供と意見交換を行った後、キャンパスツアーとして頌徳碑(しょうとくひ／献体いただいた方の慰霊碑）やドクターヘリ、スキルアップセンター、地域医療教育研修センター「白翔館」などの見学を行っています。

平成28年度は、2月19(日)に開催し、72組130名の方にご参加いただきました。

保護者見学会を通して、山口大学医学部及び附属病院への理解を深めていただき、山口大学をはじめとし山口県内での医師定着へ繋がることが期待されます。

■平成29年度　役員のご紹介

役員名	氏名	
会長	石原　得博	山口大学名誉教授
副会長	福田　進太郎	霜仁会副会長
顧問	谷澤　幸生	医学部長
保護者理事	岩永　秀幸	
	藤岡　顕太郎	
	平野　均	
	村田　和也	
	和田　尚	
	苅田　幹夫	
	河野　裕夫	
	杉山　修一	
	寒竹　司	
	田中　伸幸	
	黒髙　裕樹	新理事
	平岡　賢悟	新理事
医学科関係等理事	杉野　法広	病院長
	篠田　晃	教授（学生委員）
	木村　和博	教授（学生委員）
	松山　豪泰	教授（教務委員）
	美津島　大	教授（教務委員）
	白澤　宏幸	霜仁会理事
監事（保護者）	河野　裕夫	
監事（医学科関係）	中村　和行	山口大学名誉教授

4.高度学術医育成のための奨学金助成

平成22年度から、文部科学省の特に社会的要請が強い分野の研究医を養成する施策に対応し、大学院への進学を奨励し将来の研究医を養成する目的で「高度学術医育成コース」 を医学科に設置しています。

本コースには、高度学術医育成特別プログラム（SCEAプログラム）と高度学術医育成一般プログラム（AMRAプログラム）をもち、学部・大学院教育の一貫システムとして4年生から大学院授業の先取り受講や研究活動を開始することができます。

高度学術医育成特別プログラム(SCEAプログラム）は、履修者のうち年間2名に月額5万円の奨学金制度が用意されており、大学院終了後、奨学金の貸与を受けた期間の2倍に相当する期間中に、貸与を受けた期間と同じ期間を研究医として従事することで返還が免除されます。

高度学術医育成コース

高度学術医育成コースは、2つのプログラムから構成されます。原則学部4年生からの履修となり、研究室に配属され、研究指導を受けることができます。

高度学術医育成特別プログラム「SCEAプログラム」

SCEA:Specialy Selected Cutting Edge Academic

社会的要請の強い法医学、病理学等の基盤系分野の研究医育成のため、文部科学省から本学科に設置が認められました。年間2名の履修者に奨学金を貸与しています。

高度学術医育成一般プログラム「AMRAプログラム」

AMRA:Advanced Medical Research Academic

基礎、臨床を問わず、研究マインドのある医師・医学者を育成する山口大学独自のコースで、基礎系及び臨床系大学院進学を志向します。

■医師国家試験受験状況

発表日	新卒者			既卒者			合計		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
第109回（27.3.18）	95	82	86.3	11	5	45.5	106	87	82.1
第110回（28.3.18）	117	113	96.6	18	11	61.1	135	124	91.9
第111回（29.3.17）	117	108	92.3	12	5	41.7	129	113	87.6

特集1 新しい治療アプローチを目指す
～システムバイオインフォマティクス講座～

山口大学発の『システム医学』の樹立に向けて

システムバイオインフォマティクス講座
教授 浅井 義之

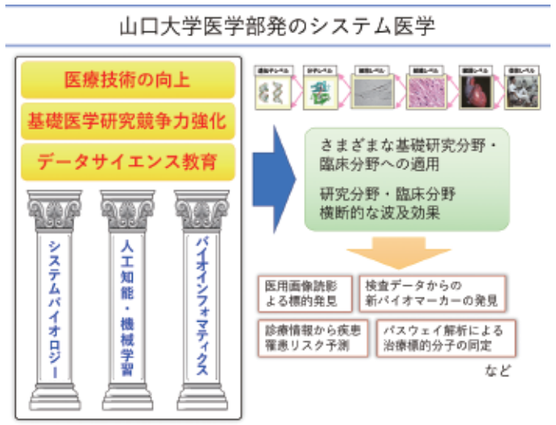
平成28年10月に山口大学医学部の環境保健医学講座の教授を拝命致しました浅井義之と申します。後援会の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

タイトルに掲げました「システム医学」という言葉を見て、なんだそれはと思われた方もいらっしゃるのではないでしょうか。この場をお借りして、この「システム医学」についてその意味や山口大学医学部での新たな取り組みをご紹介させて頂きます。

これまで、医学・生理学や生命科学において用いられてきた研究のアプローチでは、疾患のような理解が難しい問題（複雑な現象）を細胞やタンパク質など小さな要素に分解して理解しようとしてきました。これを要素還元主義的な方法論と呼びます。この方法論は16世紀ルネ・デカルトの著書『方法序説』に端を発します。それからおよそ4世紀が経ち、生命科学はめざましく発展し、タンパク質や細胞レベル、臓器レベル、組織レベルといった各レベルにおいて膨大な量の知識が蓄積されました。これをうけて、19世紀の終わり頃から、その知識を統合することで、全体を多階層的な1つのシステムとして理解しようとする統合主義的な方法論が模索されるようになりました。その具体的な手法を示したのが「システムバイオロジー」です。

これまでの生命科学が、遺伝子やタンパク質など生命機能を構成する「モノ」に着目していたのに対し、システムバイオロジーでは、モノが構成するネットワーク（これがシステム）の動き、つまりダイナミクスを研究対象とします。この立場から生命を見直すと、疾病状態というのは、健康状態に対応する生体のダイナミクスが少し乱れた状態と解釈することができます。この見方を医学研究に応用することで、これまでとは違う新しい治療アプローチが見えてきます。これまでは、疾患を引き起こす原因を解明し、その部位を元に戻そうというアプローチでした。しかし、新しい見方では、疾患の原因部位を元に戻さなくても、別の部位を調節することで乱れたダイナミクスを元に戻す、つまり治療することができる可能性がでてきます。

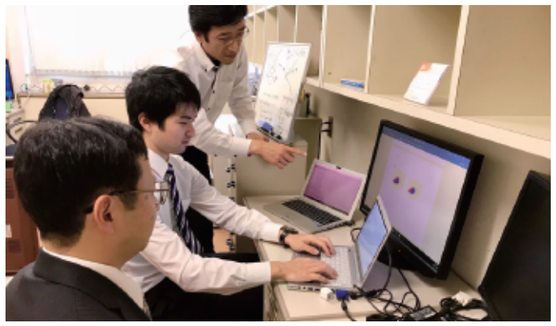
これを実施するには、システムバイオロジーに加えて近年発展がめざましい2つの解析技術を導入する必要があります。1つは、高度な統計学を用いて遺伝子解析を行うバイオインフォマティクス。そしてもう1つが、大量のデータを構造化することで未知の知識を顕在化する人工知能（AI）・機械学習です。これらの技術を総動員して、新しい治療アプローチを開発するための研究領域「システム医学」を、この山口大学で展開することを目指しています。



この目標の達成に向けて、まず平成29年4月に、当講座の名前を「システムバイオインフォマティクス講座」と変更致しました。また、6月には「多階層システム医学コホート研究・教育拠点」（リーダー：清木誠教授）が発足し、平成30年4月には世界的にも先進的な取り組みである、「AIシステム医学医療研究教育センター」（センター長：浅井）が医学系研究科内に設立される予定です。

これらの体制のもと、基礎系・臨床系の各講座の先生方と連携を密にし、基礎研究・実践医療・教育の3方面からシステム医学に取り組み、将来にわたる山口大学医学部の国内外における医学基礎研究の競争力の底上げ、医療技術の向上、そして情報分野にも精通した医師の育成の礎を築きたいと考えています。

後援会の皆様におかれましては、今後の発展にご期待頂きますと共に、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



臨床検査データをAI解析している様子

特集2 医師として生涯の仕事を
～県内呼吸器内科医の増加のために～

高齢化社会における呼吸器内科の使命

医学部附属病院副病院長
呼吸器・感染症内科学講座
教授 松永 和人

山口大学に呼吸器・感染症内科が設立され平成27年7月に着任した松永和人と申します。後援会の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

わずか4人で船出を切った呼吸器感染症内科ですが、少しずつではありますが着実に人数も増え、現在9名で診療に当たっております。しかし、実情をみますと、山口県の高齢化率は全国4位となっており、高齢化社会における呼吸器内科医の働きが重要になります。

まず、高齢化が進行すると急増する疾患として肺炎があります。また現在、日本人の死因1位は悪性腫瘍ですが、その中でも最も多くの死亡原因をしめるのが肺がんです。

そして国民病と言われるアレルギーのなかでも大きなウェイトをしめるのが気管支喘息です。気管支喘息は子供の病気と思われがちですが、大多数が成人患者で65歳以上の患者が多数を占めます。

このように呼吸器内科のカバーする領域は感染症、アレルギー、悪性腫瘍と幅広く、医師として生涯の仕事とする価値があると考えます。

しかし、山口県の人口あたりの呼吸器内科専門医数は全国で45位とかなり少ない現実があります。私たちの第一の使命は「山口県内の呼吸器内科専門医を増やすこと」であると考えています。

呼吸器内科領域では画期的新薬や新しい治療法が続々とでてきており、大きな変革が起きています。それはすなわち従来よりもさらに高い専門性が求められているという実情を表しているといえます。

表題にもございますように、山口県における求められる医師像として「高齢化社会における呼吸器内科医の使命」を挙げております。ご子息、ご令嬢の進路でご相談があれば何なりとご相談頂ければと思います。

そして引き続き後援会の皆様にはご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

外来実習の様子

表. 診療科別専門医数（平成26年）

単位：人

診療科名	医師数		人口10万対医師数		
	山口	全国	山口	全国	順位
総数	3,447	296,845	244.8	233.6	20
内科	755	61,317	53.6	48.2	19
呼吸器内科	33	5,555	2.3	4.4	45
消化器内科	191	13,805	13.6	10.9	9
循環器内科	150	11,992	10.7	9.4	14
小児科	171	167,758	98.3	103.2	28
精神科	212	15,187	15.1	12.0	14
神経内科	51	4,657	3.6	3.7	22
外科	303	15,383	21.5	12.1	2
整形外科	255	20,996	18.1	16.5	22
脳神経外科	102	7,147	7.2	5.6	8

診療科名	医師数		人口10万対医師数		
	山口	全国	山口	全国	順位
心臓血管外科	29	3,048	2.2	2.4	26
産婦人科・産科	117	11,085	43.7	42.2	25
婦人科	11	1,803	6.3	6.9	23
眼科	125	12,938	9.4	10.2	25
耳鼻咽喉科	113	9,211	7.7	7.2	14
皮膚科	94	8,850	6.7	7.0	21
泌尿器科	94	6,837	6.8	5.4	9
放射線科	82	6,169	6.3	4.9	16
麻酔科	91	8,625	7.0	6.8	23
救急科	21	3,011	1.7	2.4	28

出典：やまぐちドクターネット

※小児科：小児（15歳未満）人口10万対
産婦人科・産科及び婦人科：女子（15～49歳）人口10万対

第73回 医学祭
Go All Out!!
~医祭合祭~

第73回医学祭実行委員会
委員長
井上　晋太郎

11月2日から4日の3日間で、第73回山口大学医学祭が開催されました。テーマとして掲げた「Go All Out!! ～医祭合祭～」は、全員が全力を出し切って作り上げる医学祭にしたい、医学祭を通じて様々な物事に全身全霊で取り組んで欲しい、との思いで決定いたしました。幸いにも三日間を通して天候に恵まれ、非常に盛り上がった医学祭となりました。

前夜祭である木曜日には1年生が主体となって行われる「クラブ対抗選手権」があり、ダンスやコント等が行われました。本祭1日目の金曜日は学生LIVEで幕を開けました。その後、アーティストの「THE BAWDIES」がLIVEを行い、会場はお客さんで満員となり、素敵なLIVEとなりました。また、Mr.&Missコンテストや様々な障害、お題をクリアして一番を決める鉄人レースも行われ、例年以上の盛り上がりを見せたように思いました。また、落語家の三遊亭圓丸師匠が来てくださり、笑いを通じた健康づくりについてお話していただきました。会場には老若男女問わず様々な方が足を運んで下さり、大盛況となりました。

本祭2日目の土曜日には、軽音楽部が演奏を行い、朝からたくさんの方がご来場されました。2日目の目玉でもあるお笑いLIVEでは「レイザーラモン」「ザ・ツネハッチャン」「メンバー」の3組が来てくださり、会場を爆笑の渦に巻き込みました。その後の企画では本学吉田地区からダンスサークルの「AMO」とよさこいサークルの「やっさん」をお呼びしたほか、新企画では学生だけでなく先生方や職員の方にも参加していただき、今までにない盛り上がりを見せました。BINGOではカードも完売となり、例年以上の来場人数でした。大きなトラブルもなく、3日間の医学祭は大盛況に終わりました。

この医学祭を通して最も印象に残ったことは、お客さんも学生も笑顔だったことです。テーマである「Go All Out!!」に則り、来場された方々も、運営する学生も、全員が心から全力で楽しめる医学祭を作り上げることができたと、しみじみと実感しております。

最後になりますが、今学祭に関してご協力をいただきました方々に心から感謝申し上げます。至らぬ点は多々あったことと存じますが、皆様方のおかげをもちまして、無事医学祭を終えることができました。本当にありがとうございました。

今後とも医学祭に関しまして、ご理解ご協力のほど、よろしくお願い致します。

サークル活動紹介

学生自治会長
医学科4年
加藤　幸多

本年度、山口大学医学部学生自治会で会長職を務めさせて頂いております、医学科4年の加藤幸多です。

学生自治会とは、山口大学医学部に所属する全医学生から成る、学生のみによって構成される組織です。活動内容は、学生主体の組織・団体(部活やサークル)の統括、国家試験委員ほか各種委員会の補助など、学生全体に関わる企画の実施です。

他大学と比較しましても、山口大学医学部では部活動が非常に盛んであり、実に8割以上の学生が部活動に所属しております。本年度、山口大学は国体に次ぐ規模である西日本医科学生総合体育大会の主幹校を務めさせて頂きました。全医学生が大会運営に奔走する中でも、ハンドボール部が見事優勝、また水泳部・空手道部・剣道部も上位入賞を果たし、山口大学は総合成績3位という好成績を残しています。

山口大学医学部は文化的な活動も活発です。国際医療研究会では部員が海外へ行き、現地の医療・福祉に関わることで医学だけでなく様々な文化や価値観について学ぶ機会をもっています。サークルのひとつであるCode Orangeは心肺蘇生法を中心としたBLSの普及を目的として活動しており、医学祭などの機会には市民の方にも普及活動を行っています。以上のように学生は文武両道の精神で学生生活に励んでおり、学生自治会はこのような学生の活動を十分に支援していきたいと考えております。

他の自治会の活動と致しましては、今年度も吉田-小串間での平日におけるバス運行を実施しております。繰り返しになりますが、山口大学医学部では8割以上の学生が部活に所属しております。しかし、1年生は教養教育のために異なるキャンパスでの学生生活を送るため、部活動においてはキャンパス間での1年生の送迎が必要不可欠です。このバス運行の活動を継続できるのはひとえに山口大学医学部に関係される方々を始めとした様々な方のご理解、ご支援あってのことと考えております。この場を借りて感謝申し上げます。

近年、新専門医制度の制定や日本医学教育評価機構の評価等、医学生を取り巻く環境は大きく変化する過渡期にあります。これらの変化は医学生一人一人の将来に直結する問題であり、よりよい将来のためには学生の主体的な意見が必要不可欠です。山口大学医学部学生自治会は学生と大学を双方向的に繋ぐことで、山口大学が両者にとって充実した大学となるよう環境を整えていきたいと考えております。

山口大学医学部のように自治会の活動が活発な大学は全国的に見ても数が少なく、このような活動が可能となっているのも、自治会の活動に寛大なご理解を頂きました先生方の助けがあってのことだと考えております。この恵まれた環境を積極的に活かし、私たち学生はよき医療従事者となるために日々の勉学に一層励んで参りますので、今後とも山口大学医学部、また学生自治会をよろしくお願いします。